

無表情の 幼馴染と 淫靡な

本番禁止
何度も搾られた話

って
言ってたのに...

ド
キ
ッ
チ
ン♡



幼馴染

無表情

冷静

優秀で真面目

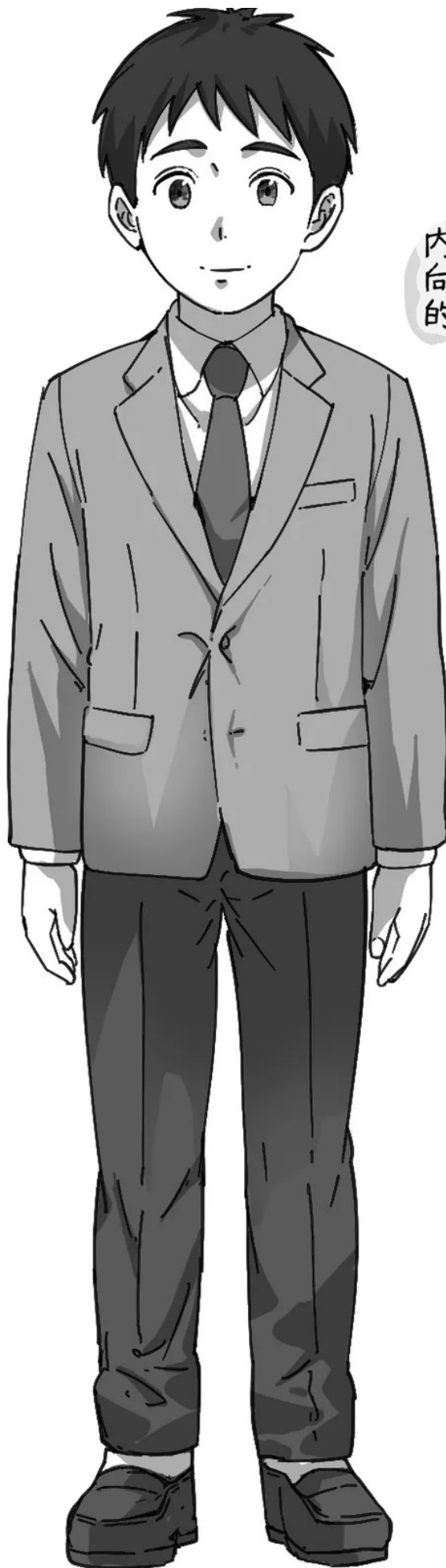


まな

内向的

気弱

地味系男子



駿



放課後の図書室

沈黙の中で二人の距離だけが近い



ねえ駿…

私たち…予習って、
しておくべきだと思う？

へ？



まなって
前からずっと変わらない

感情を見せないくせに
妙に距離が近いんだよな…



実際に始まってから…
失敗するの恥ずかしいでしょ？

えっちの予習…

は！？

それ、今度の中間の
話じゃないよな？

え、予習って…

だから、ちゃんと
準備しておきたいの

まなのお願いが沈んでいた
日常と股間を揺らした

名前：まな
年齢：高〇2年生
身長：158cm
体型：やや細身ながら出るところは出ている
胸囲：B86 (Dカップ)



常に無表情。声も小さく、感情の起伏が少ない
冷静、淡々、でも芯が強い。ややマイペース
成績：学年上位。真面目で几帳面
趣味：読書、特に実用書や心理学系
人間関係：幼馴染の駿以外と深く関わらない
その他：恋愛経験ゼロ。
性的なことには興味があるが、実践に不安がある

AVでの知識は実戦で試すと
ダメってしみ〇んも言ってたし…

でも僕はAVでしか
セックスを見たことがない…



変に気を使わなくていいから

練習台に
なってくれない？

駿なら…
信頼できるし…



うん、本番は禁止だよ

あくまで…
練習だけってことで…
安心して



そ、それってさ…冗談とか

イタズラかな…

そういうノリじゃ…
ないんだよね？



まなのその言葉は
どこまでも淡々としていた

現実離れしているのに
嘘には聞こえなかった



だって、初めてって
絶対緊張するし

うまくできるか
わからないでしょ？

好きな人とする時に
失敗するくらいなら
駿で予習しときたいの

あ…



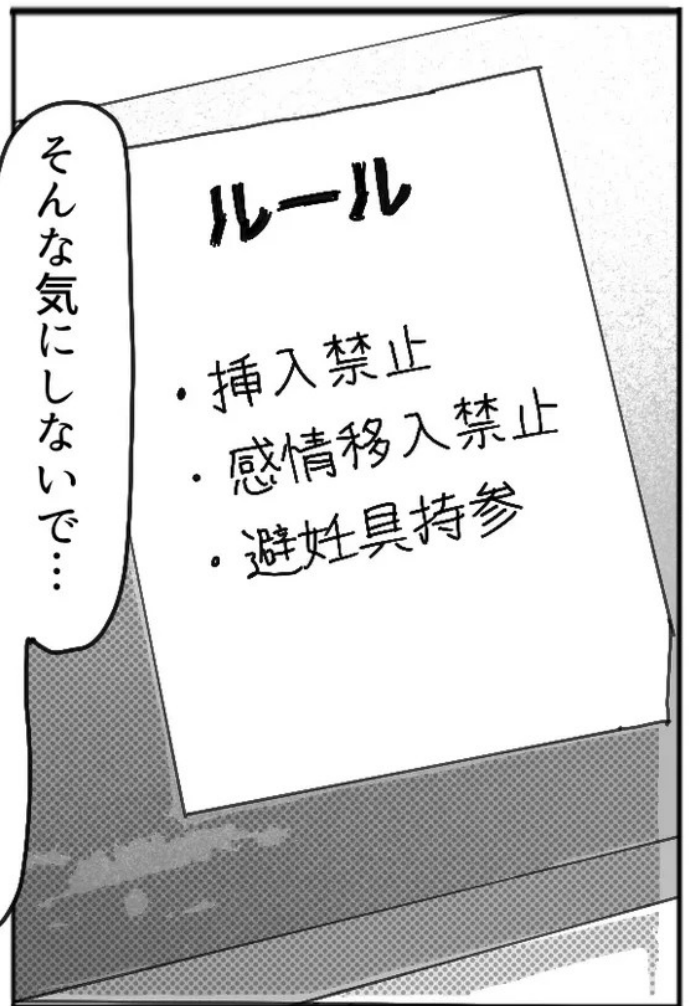
なんで…
急にそんなこと
言い出すんだよ

前触れもなしに…



これは練習だから
本番じゃないし

変なことには
ならないよ
安心してね



そんな気にしないで…

ルール

- ・挿入禁止
- ・感情移入禁止
- ・避妊具持参



好きな人って…？



でも、こんなの見せられて
断れる空気じゃねえ…



ルールって…
どこまで真面目なんだよ

てか…



無表情で感情を見せない

だけど俺はその静けさに
救われてたのかもしれない



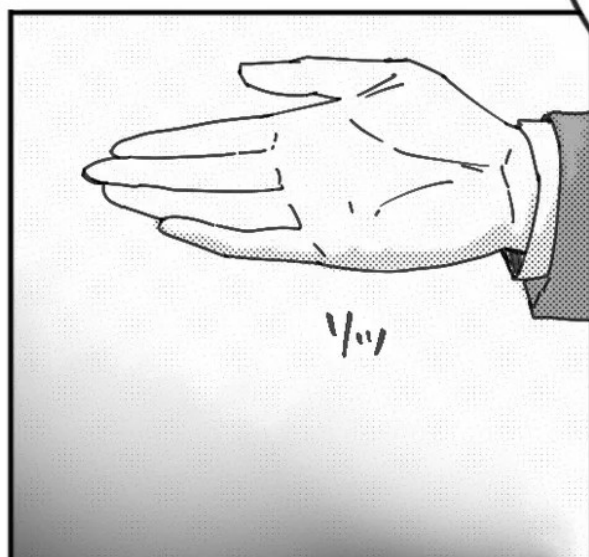
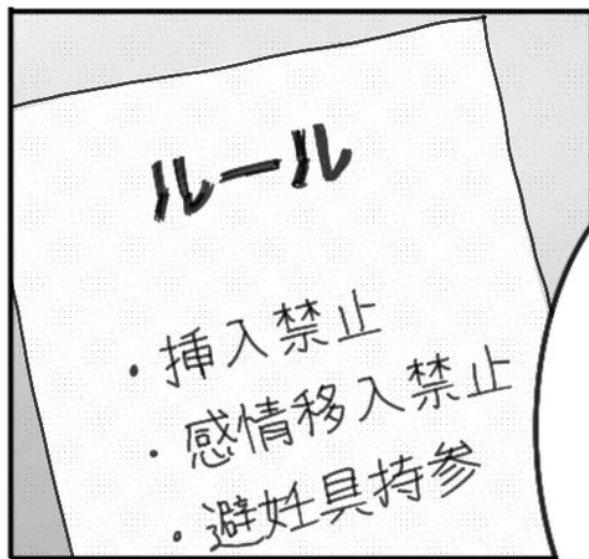
勉強で落ちこぼれてた
あの時…俺を…俺を…

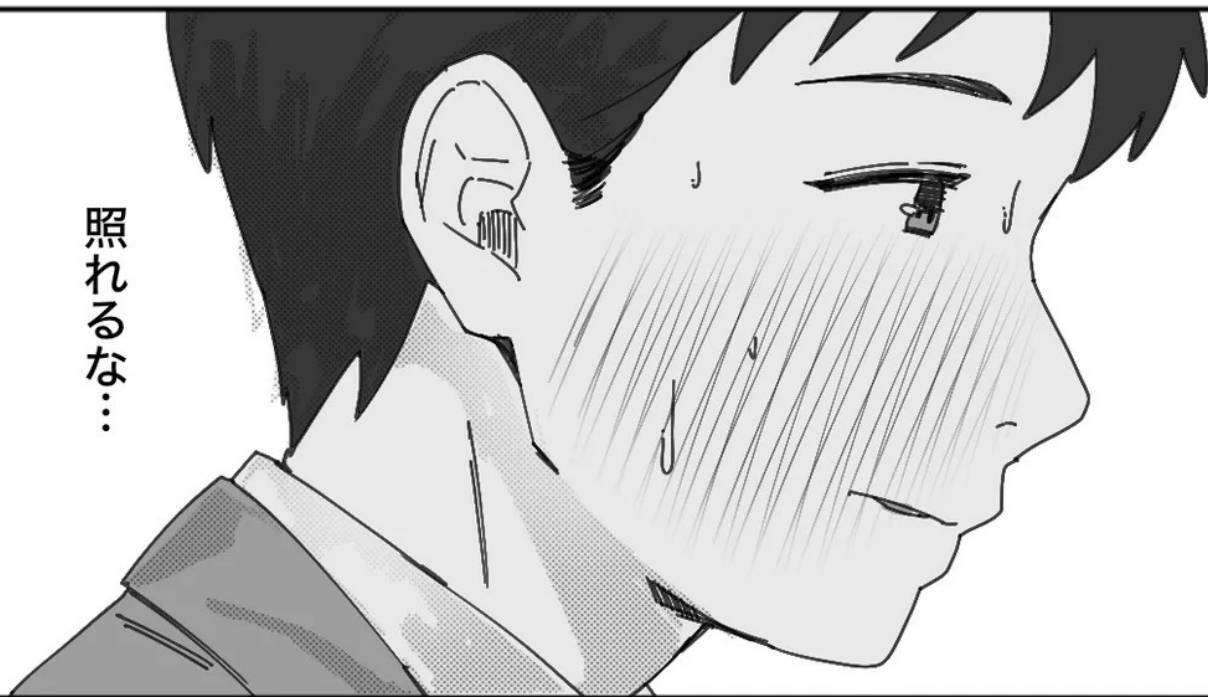
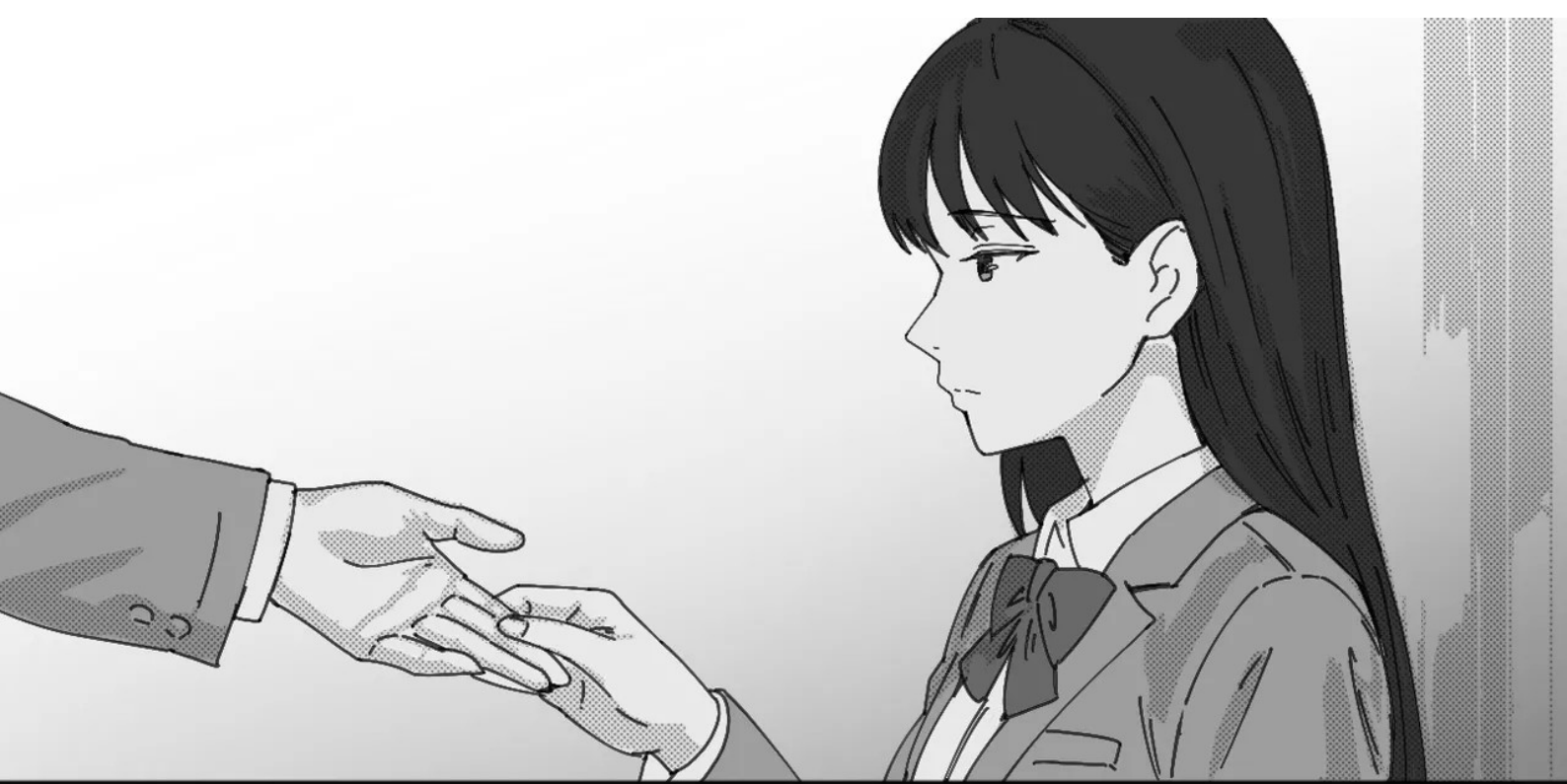


俺を気にかけてくれたのは
まなだけだった



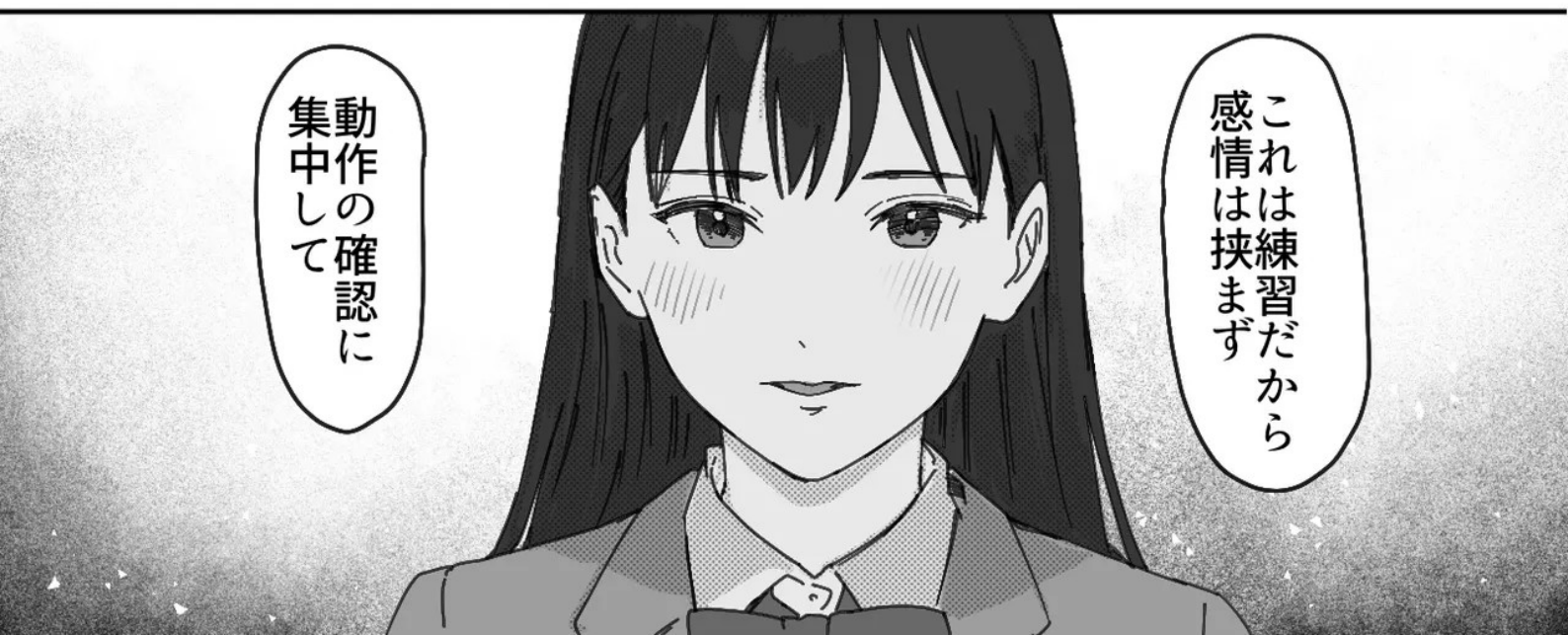






ごうごうの…
あらためてやると

照れるな…



これは練習だから
感情は挟まず

動作の確認に
集中して



ある日の教室で…

初エツチ
全然うまく
いなくてさ…

気持ちよくなかったし



準備してなかったから
失敗した——

そんな話
何度も聞いた

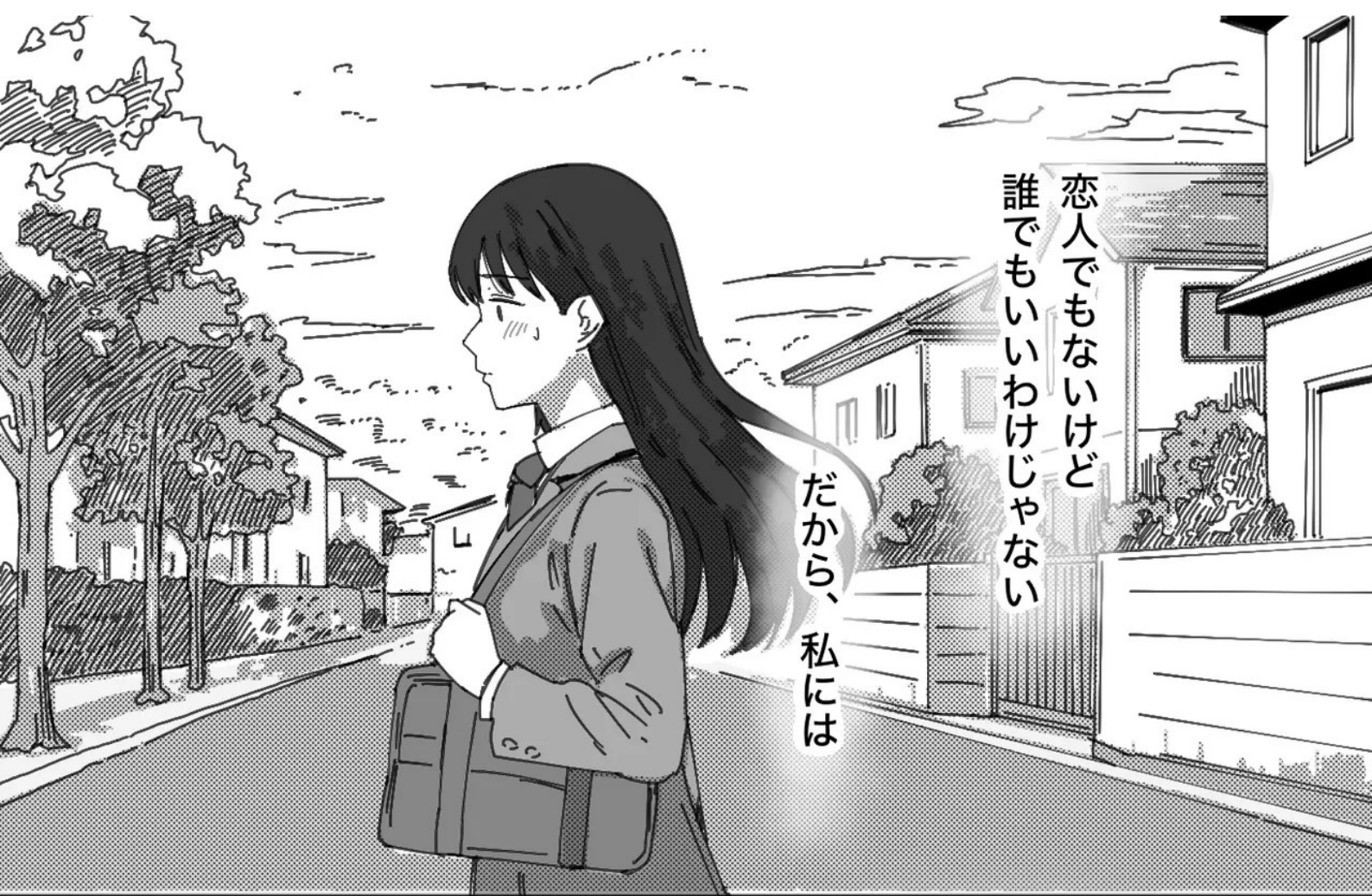


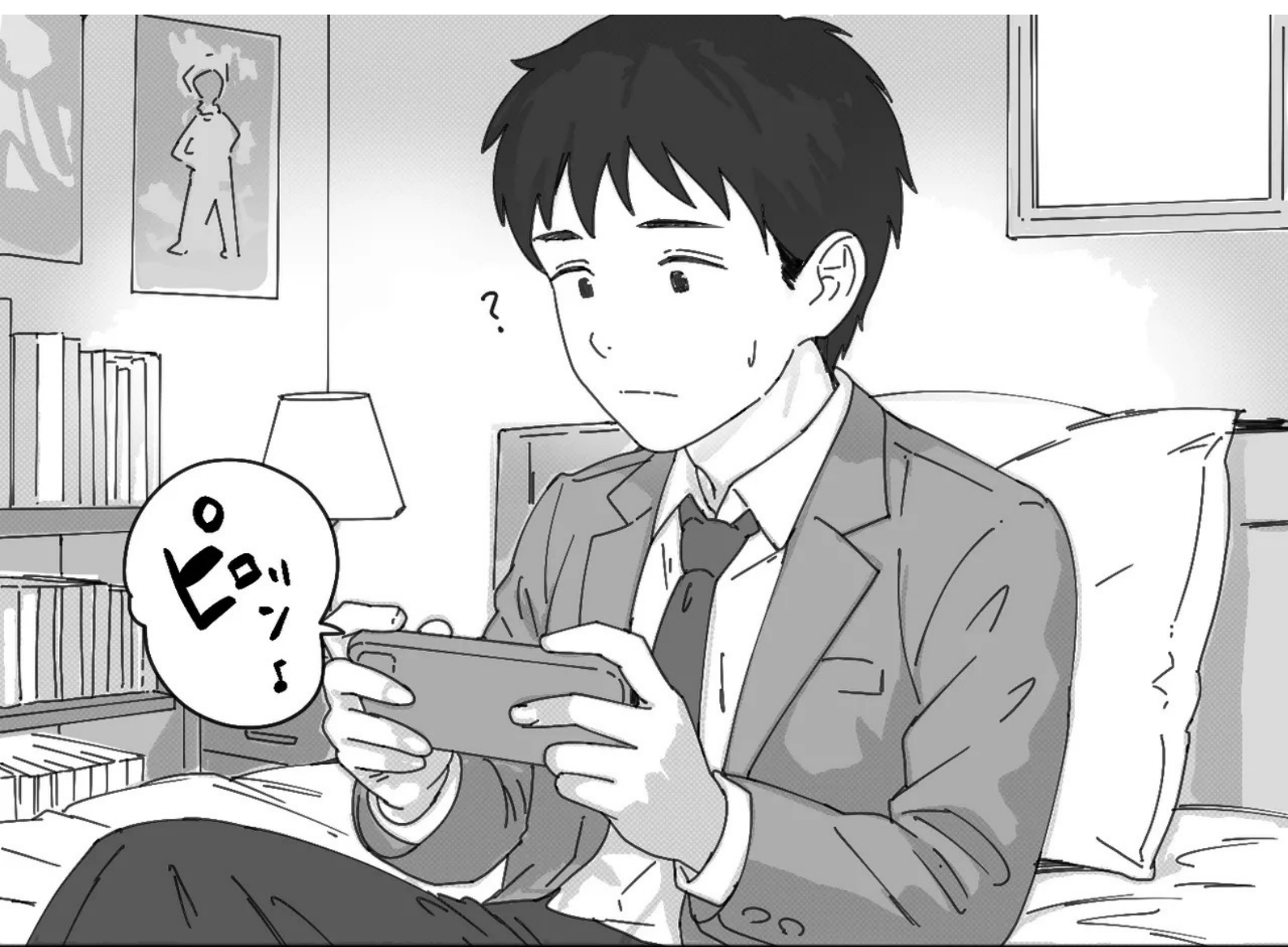
私はそういう
後悔はしたくない

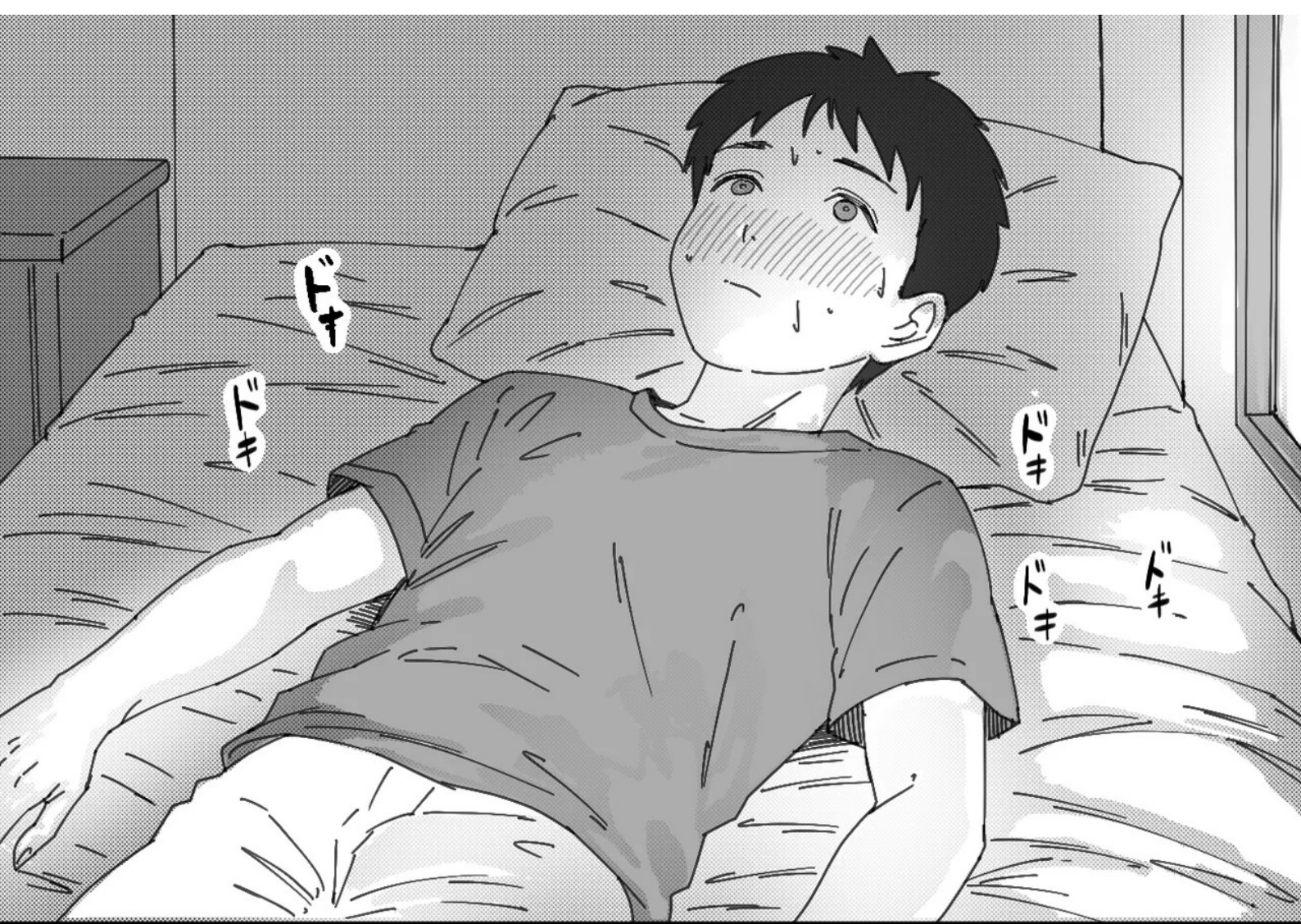


練習とかしないじゃん？
こういうのってさあ？

こんなあつさり処女
じゃなくなるなんて思わなかったわ？







幼馴染と「そんなこと」とか
ありえないって…



普通に考えたら
断るべきだよな…？





でも…相手が
まななら…

昔からずっと一緒にいたし…
ちよつとだけなら…

フッキ☆



今、ひとつの
境界線を越えた—



理性を超えたのは、好奇心か
それとも、抑えきれない欲望か



昨日
明日始めよう

23:09

今日

うん、わかった行くよ

23:06

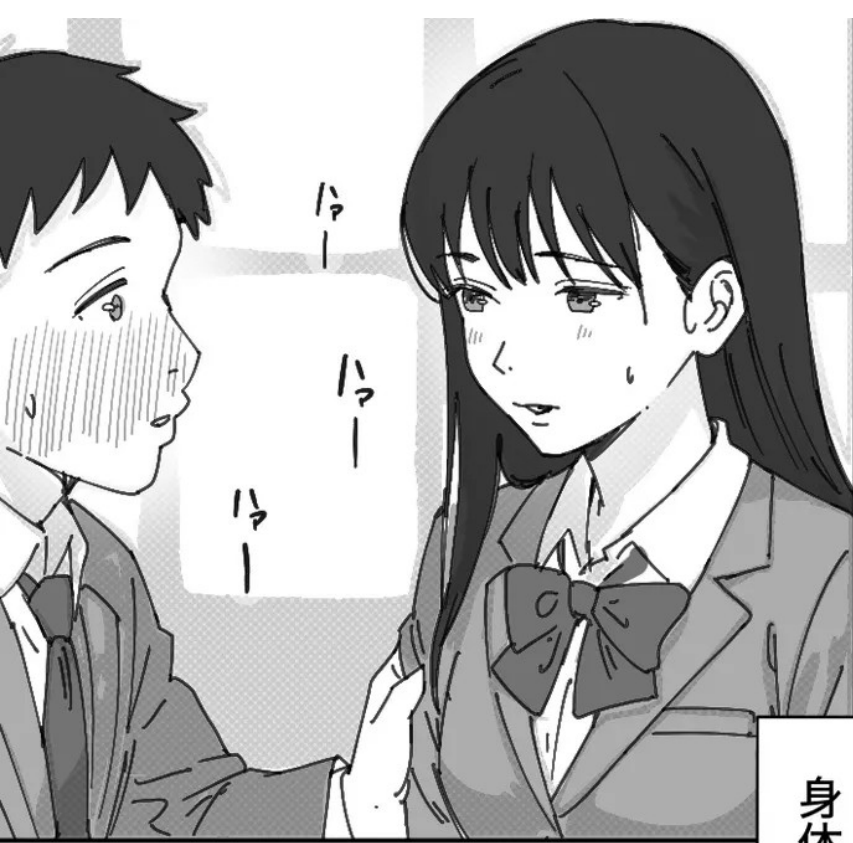


まずはスキンシップの
導入練習から始めるね

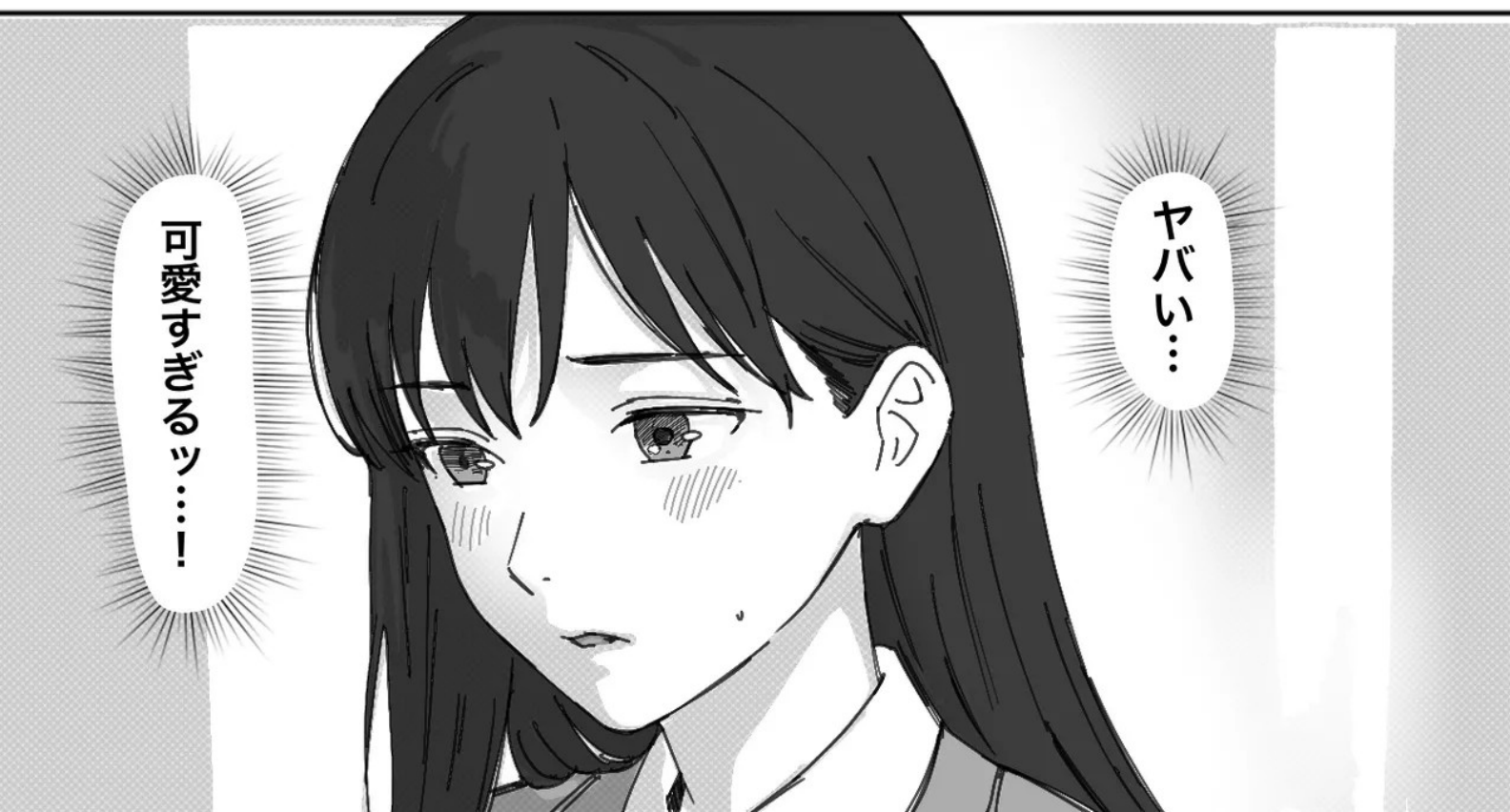


ぎこちないけど、確かに
今、まなと触れている――





その小さな吐息が、
身体の奥を熱くする







最近、まなとよく一緒に
いるよな？なんかあった？

いや、別に…

ちよつと話す
機会が増えただけ



まなとのこと、まさか
練習してるなんて
言えるわけない…

どこまでが普通で、
どこからが逸脱なんだろう…

ヒヤリ



俺、今すごく
変なことしてるよな…？

だけど…



むしろ、もっと――



やめたいとは思わない…！



えっ、それって…



もう本番の
一歩手前じゃ…



挿入しなきゃセーフ
問題ないって冷静に考えて



今日は素股をする
下着越しだから

ちゃんとルール内でね…

ちゃんと擦って

リアルな動きの
練習大事だから

こんな…ヤバい
気持ち良すぎる…!!

はあ

はあ

これでいいのかな…

はあ



んっ、そこ…
もうちょっと

強くてもいい

無表情なのに…
感じてるってわかる…！

ドキ♡

ドキ♡

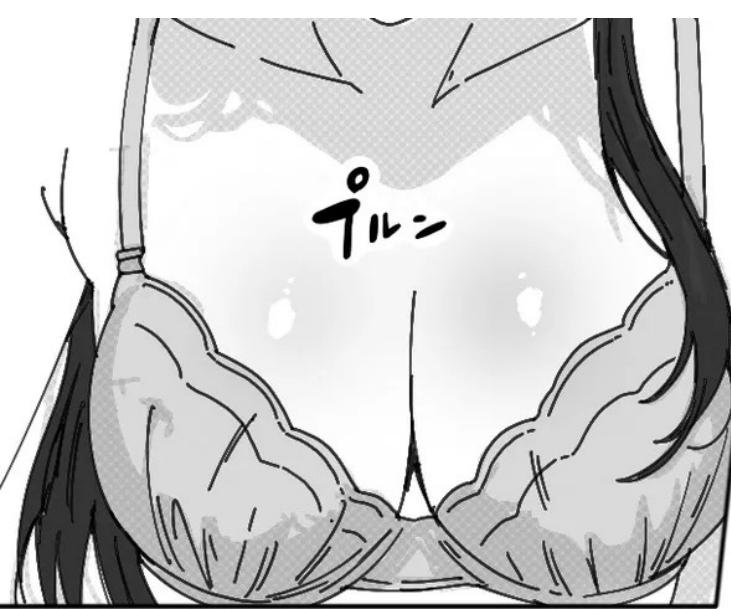
ドキ♡

ズグ

ズグ…

ズグ









これ…本当に
ごっこ…なのか…？

駿の…
固くなってるね

予習
調ってことかな

ドキッ

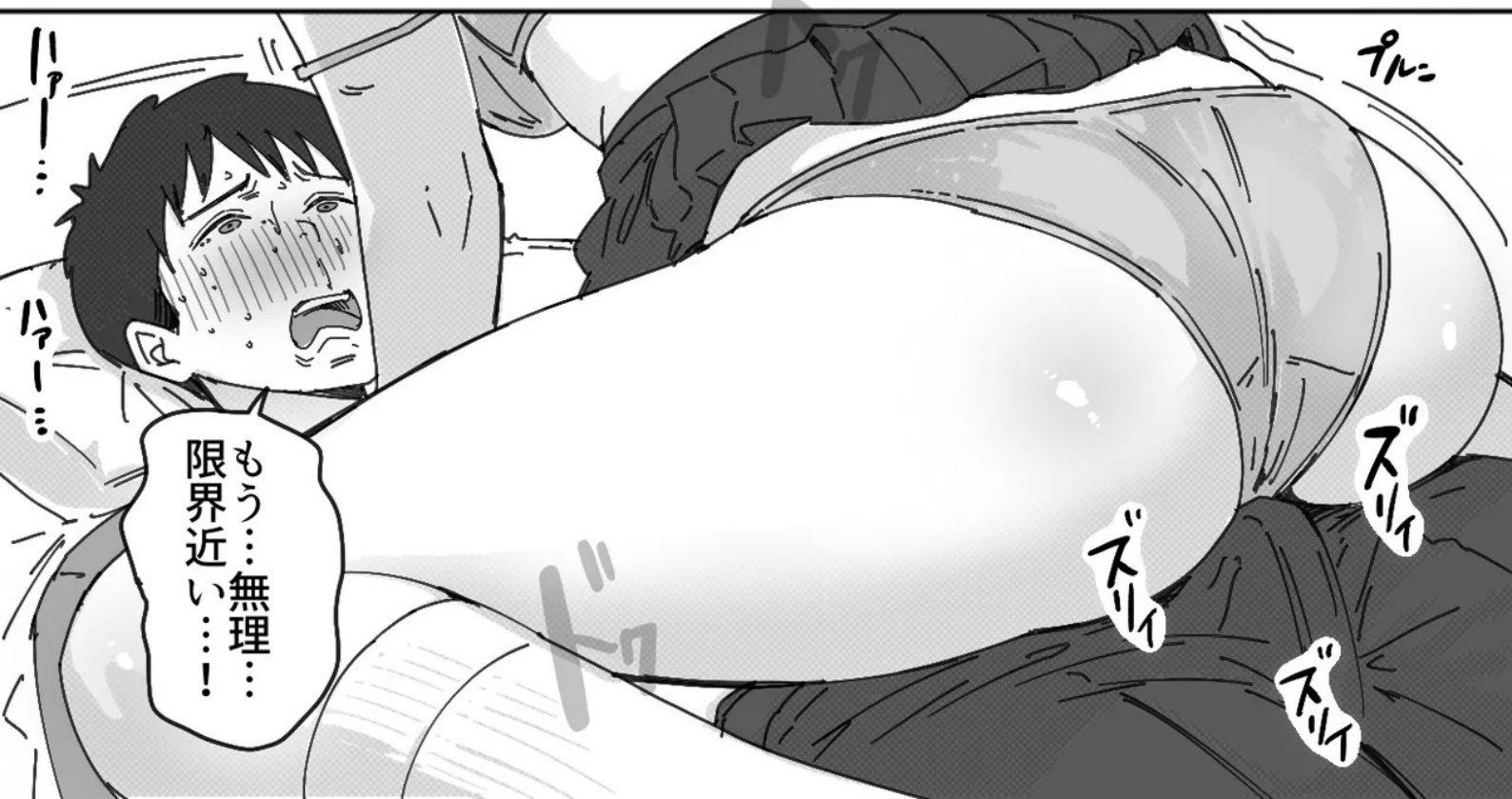
ドキッ

ズキン

ズキン

ドキニ

ドモッ





今日はここまでにしよう

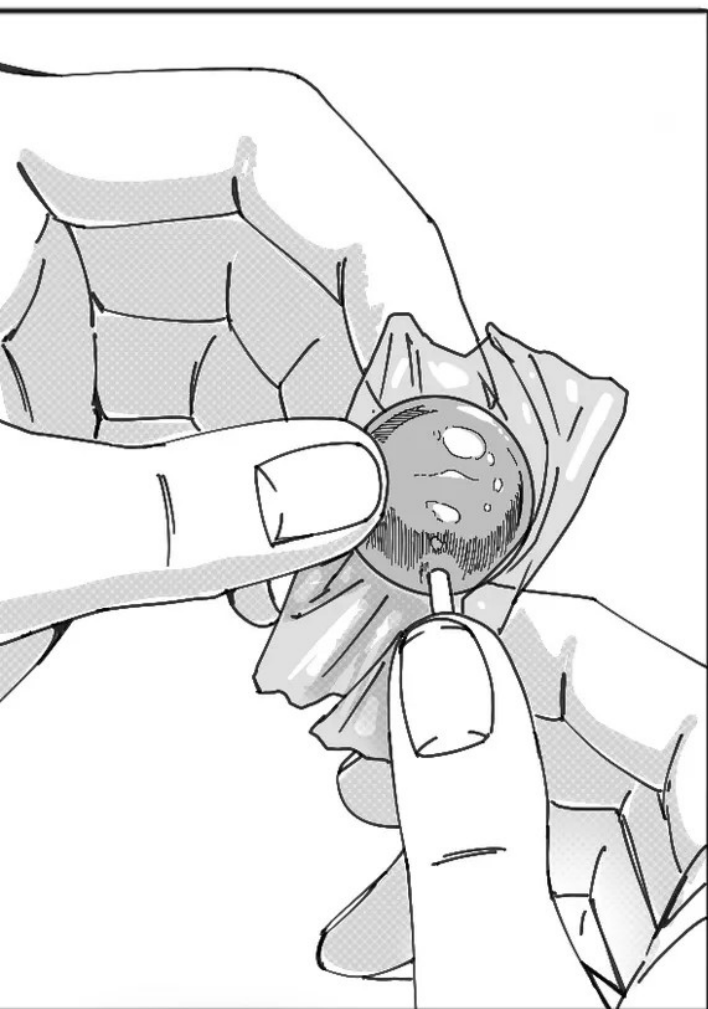


次は…口でやるから
覚悟、しててね



はあ…はあ…









次は何を…
するんだろう…

本番かもね…

ドキ

ドキ

ドキ

淡々と、でもほんの
少しだけ笑ったように見えた

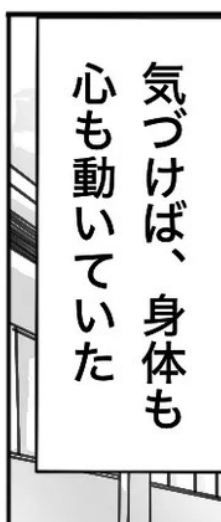
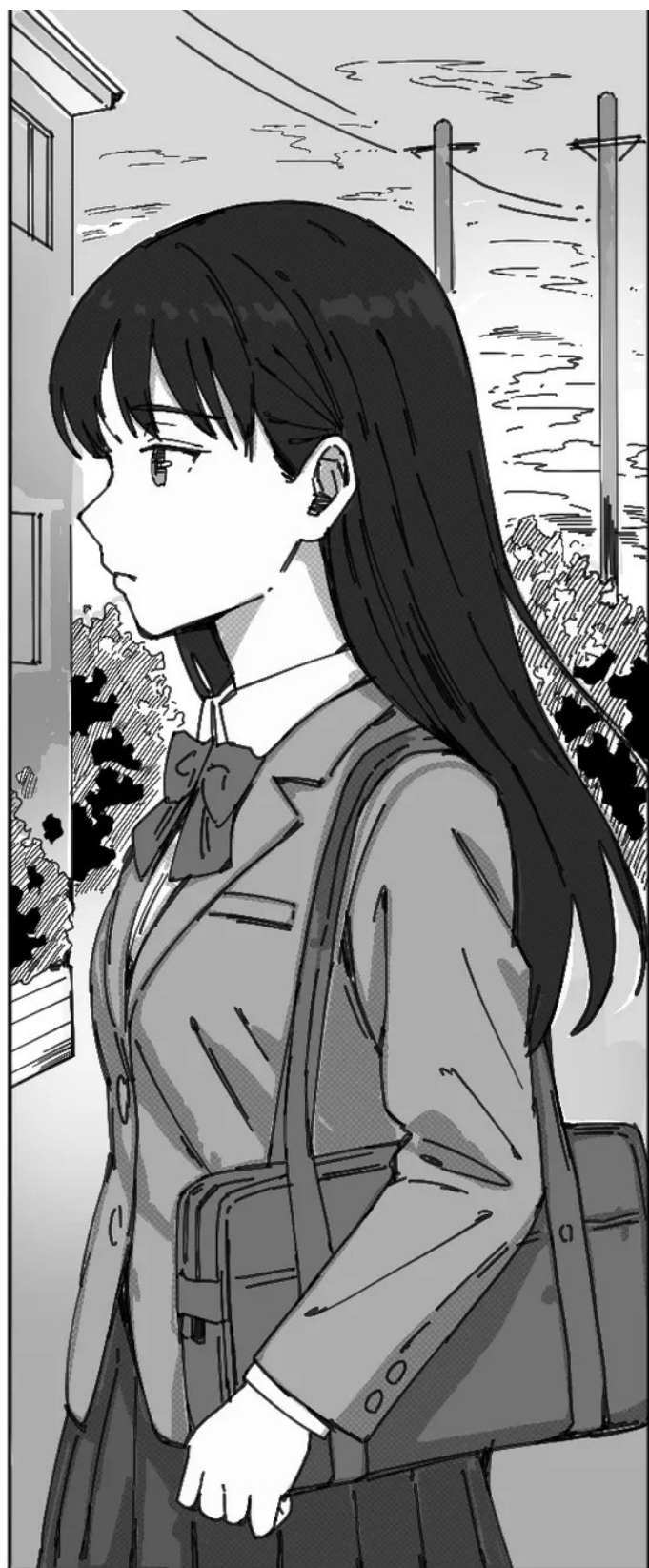
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ









暗闇の中で自分と
向き合うしかなかった

まなの顔ばかりが浮かぶ

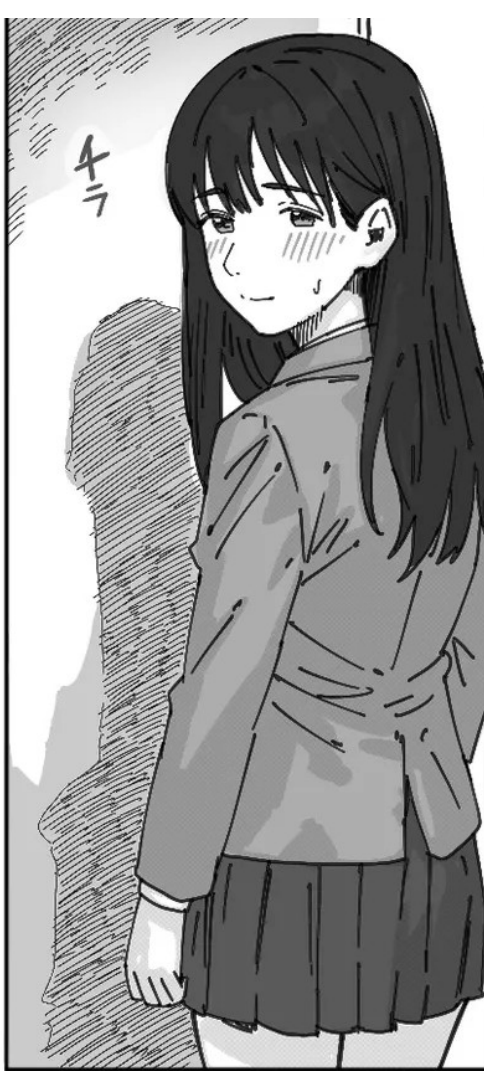


あいつの気持ち……
わからない

『予習』って言うってるけど
あれは本当に
ただの練習だったのか？



もう……
止まれないかもしれない





駿の世界が
ちんこ
揺れた瞬間だった

今日は
本番するよ

あの無表情なまなが—
自分の意思で選んだ言葉

まな……
ずっと一緒だった幼馴染

そんなまなが、
今、俺の前で裸になっている……？

笑うのも、泣くのも、無表情で——
でも、いつも俺の隣にいた

モッコリ

ビク

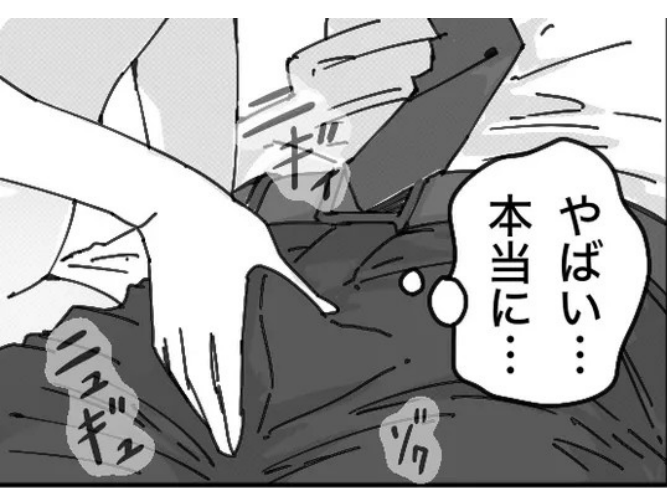
ドッ

ドッ

ドッ

ドク

ツクッ♡



やばい…
本当に…



もう、我慢…
できないんでしょ…？



見せて…

理性を越えた
予習が始まる—

けど、体が熱くて、
断れる気がしない…

目の前の女の子が
俺の幼馴染なんだぞ…？

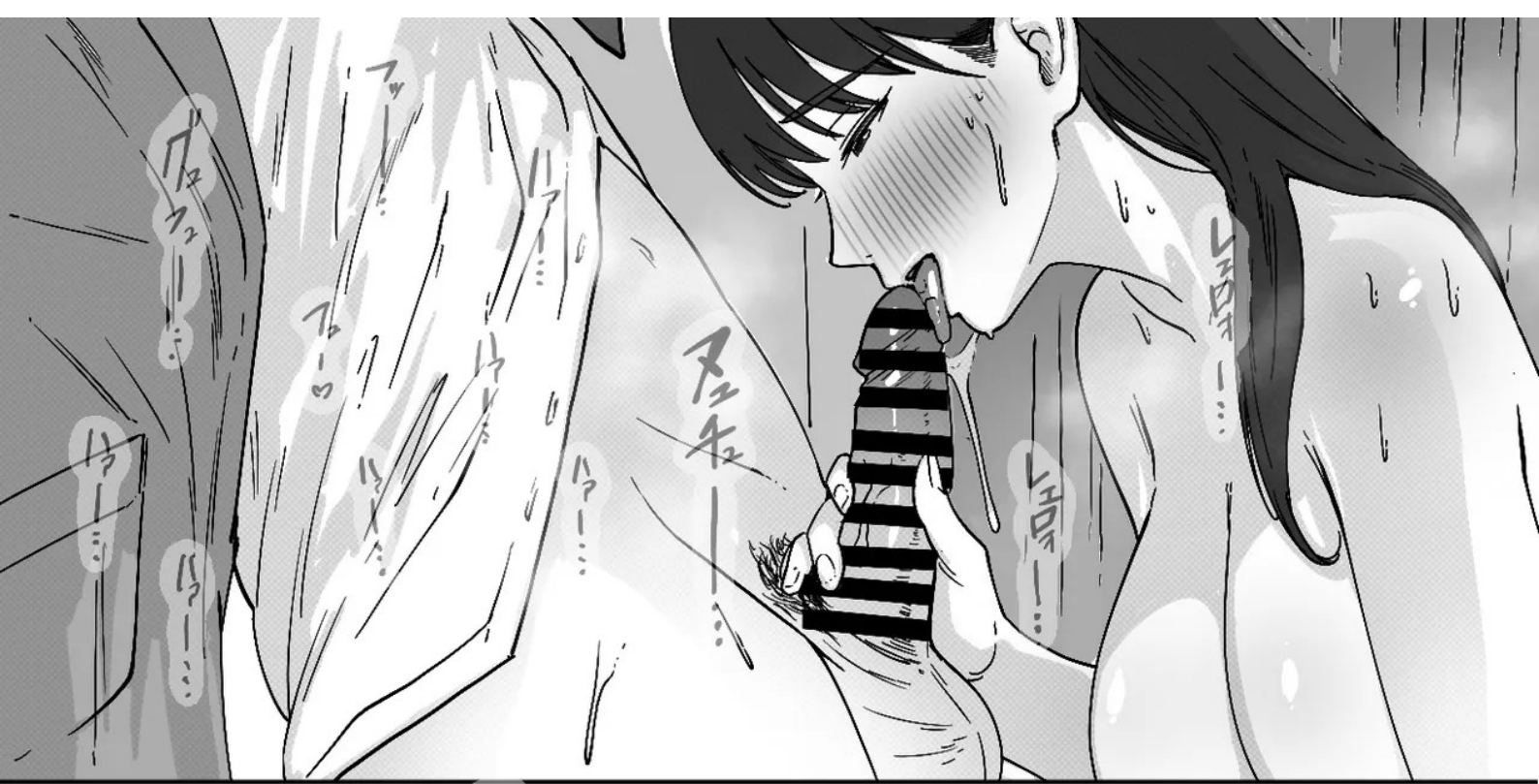














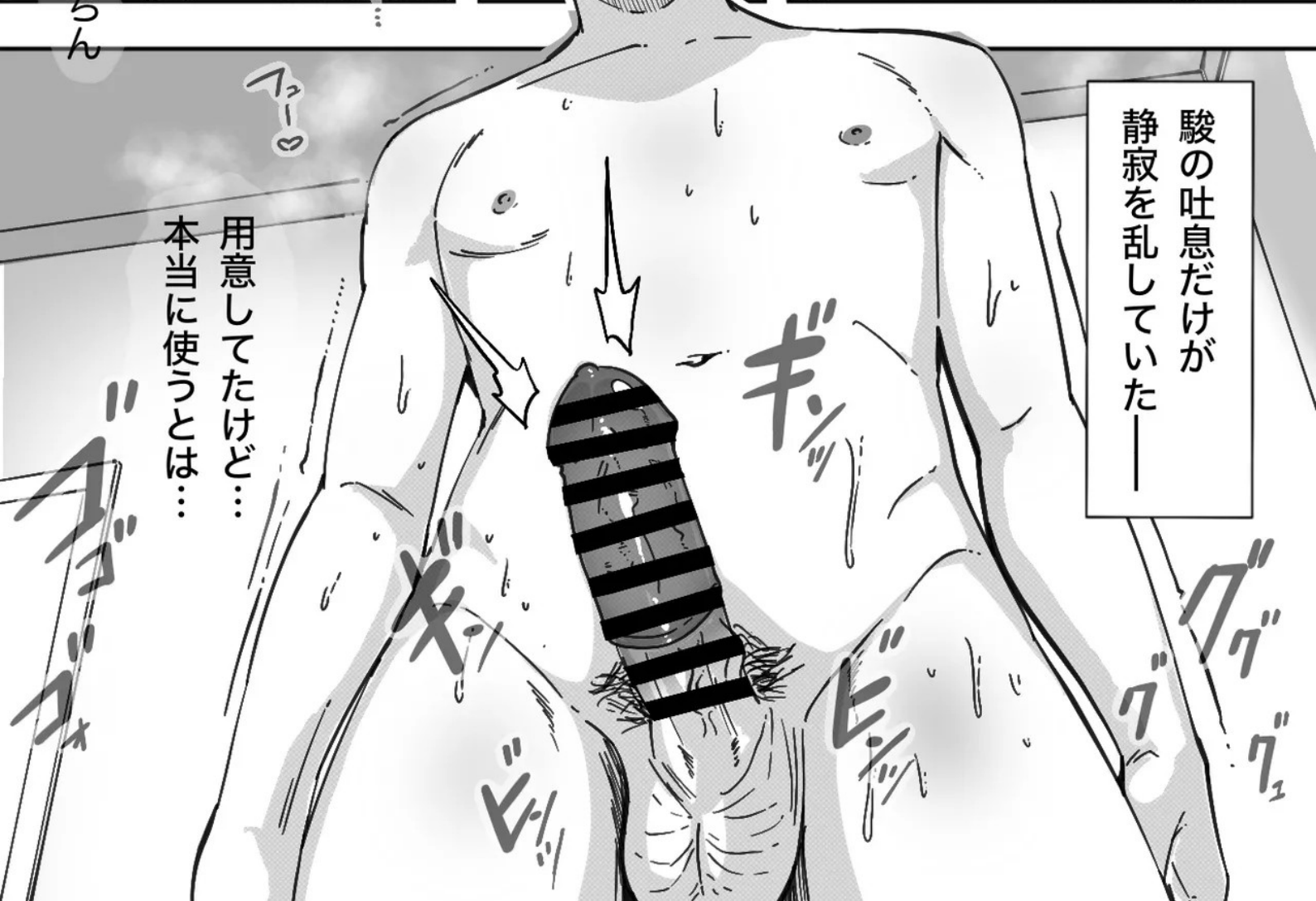
これが、予習なんて…



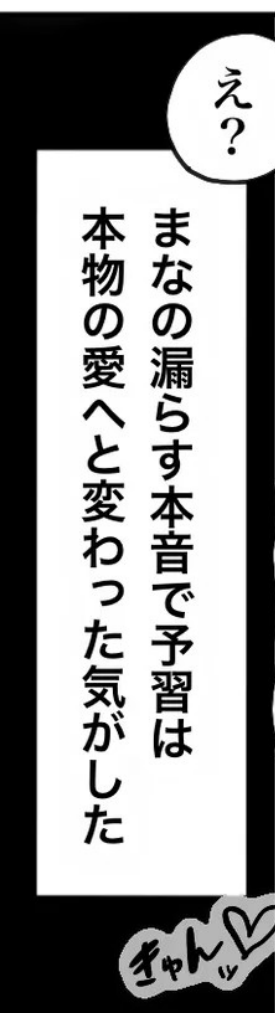
意外と、甘かった…



もう、ただの「遊び」では
済まされない—









はい
挿入
った…

怖さも、戸惑いも全部呑み込んで
まなは彼を受け入れようとしていた











痙攣する膣内に
駿のちんぽがピストンしまくる

快感が頂点を指して
突き上げていく

キッ♡

キッ♡





射精を越えたあとの静かな時間
ふたりの心音だけが重なって響いていた



繋がっていた余韻が
身体の奥にほんのり残っていた

駿……

言葉は邪魔だった
触れるだけで十分に
伝わるものがあった



や、やめてよ……
恥ずかしいだろ……



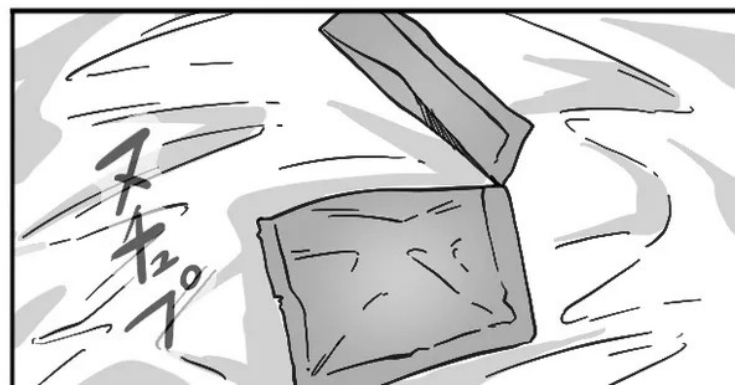
こんなに……
中でいっぱい
なってたんだ……♡

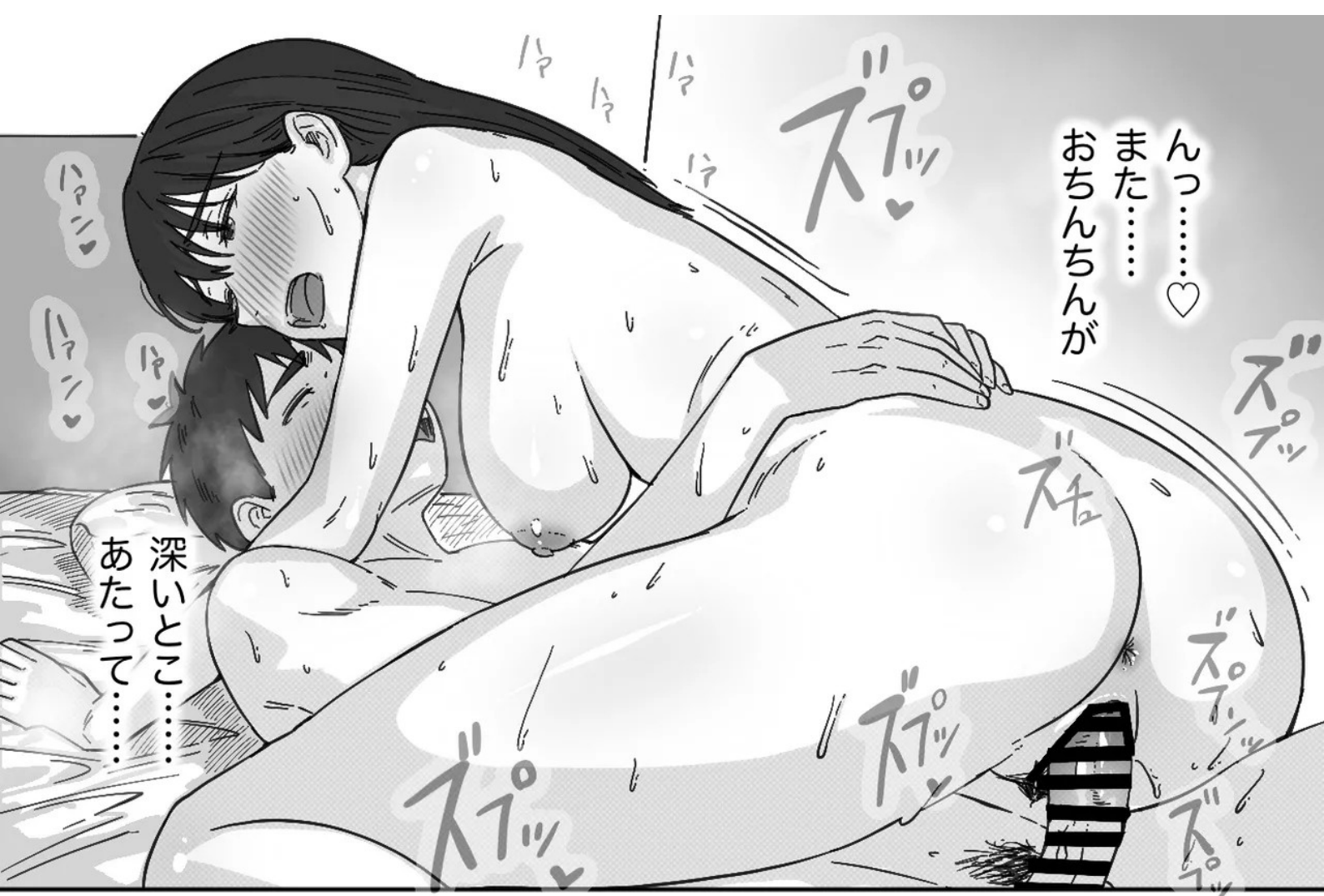


ねえ……
もう一回……

してもいい？

その声はとろけるようで
またちんこがおっきした







ふたりの動きは
もう止まれなかった

本能に突き
動かされていく



いっ…っちやう…
駿と一緒に…っ♡



まな…っ
やばいよ…!!



なんでもないよな……

その目に、迷いはなかった
あの時から――



駿……
ありがと……♡

彼女の心はずっと
決まっていたんだ





夜が明けても
まだ離れたくなかった

肌の温もりが
心に染み込んでいく



ふたりの恋の
本当の始まりだった



それはきっと
予習の終わりであり





騒がしさも、匂いも、
風景も、全部がいつも通り



ねえ、今日
お昼どうする？

え、食堂のメニュー
今日微妙だよ！

私好きなんだけど！

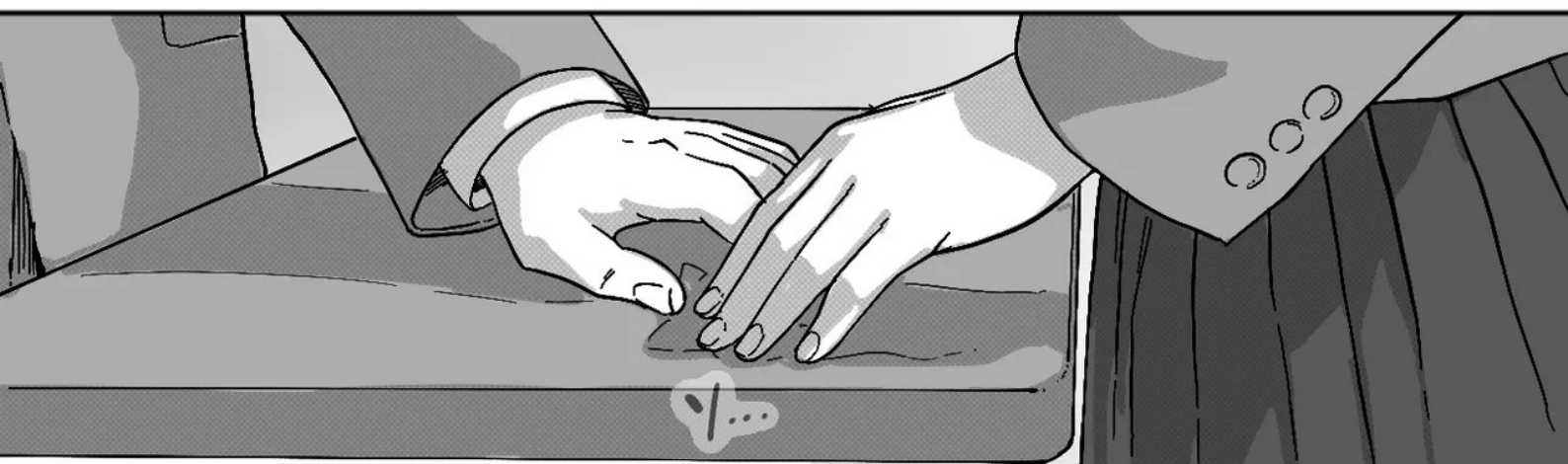
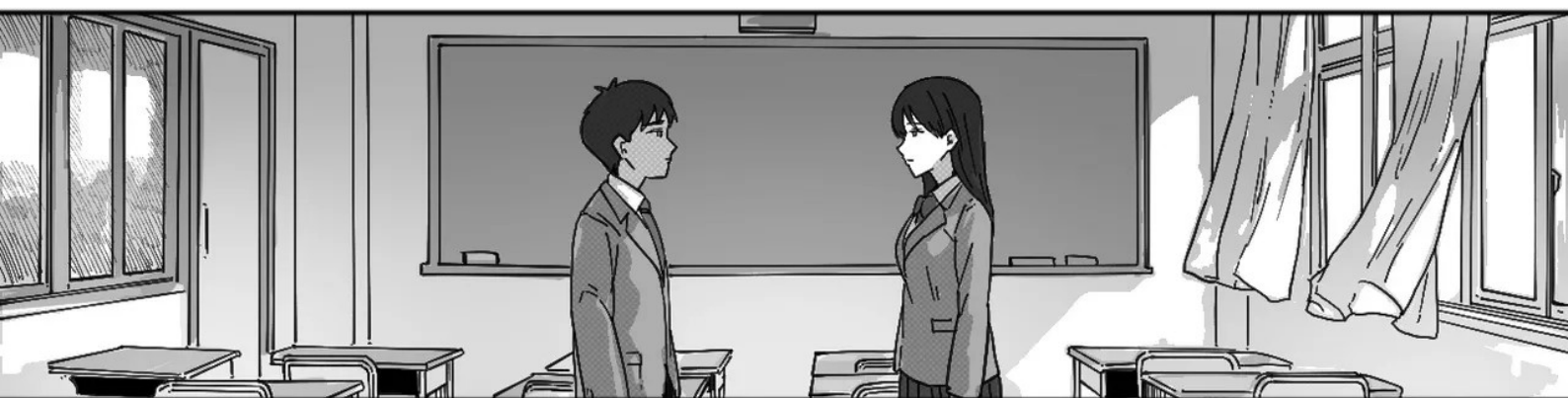


頭の中で
まだ熱を帯びていた



昨夜の記憶が
焼きついたまま…

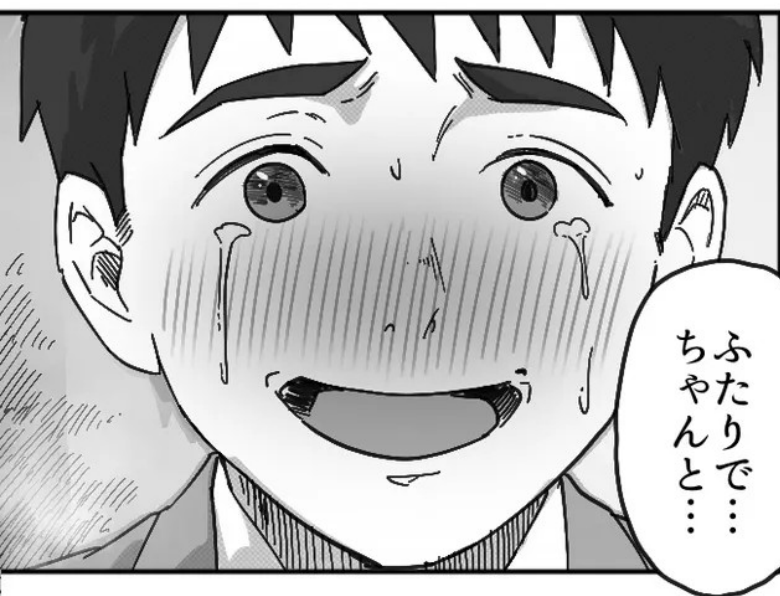






その笑顔は、練習じゃ
見せたことのない――

本物だった



ふたりで……
ちゃんと……



今度は“予習”
じゃなくて……



終わりではなく
始まりの予感――





さっきの「ふたりで
ちゃんと」って…

あれ、ちよつと
ドキッとするよ

私も、あとで
少し恥ずかしくなった



「予習」の次は
きつと――

2人の答え合わせが
始まるのかもしれない

照れながら笑い合って
肩が少し触れるたびに胸が鳴る



言葉にしたなら
余計に意識しちゃうのに



あの頃はただ一緒に
歩けるだけで嬉しかった

まなはいつも無表情だったけど
俺の手はしっかり握ってくれてた

「今日も隣にいてくれる」
それが、何よりの安心だった



まなを意識すると
股が勝手に反応してしまう

やめてくれよ
そんな顔……

恥ずかしいのにそれを
見透かすようにまなは少し笑ってた

びしょ濡れの制服越しに
まなの肌が透けて見えて

見ちゃいけない
でも見てしまう

まなは何も言わずただ前を見ていた
バレそうでドキドキした





あの日は…
一瞬何が起きたのか…
わからなかった

気づいたときには
まなが俺の前に立ってた

守られてたのは
俺の方だった

その事実が、妙に悔しくて
でもちよっとだけ…嬉しかった

どうしてあの時あんなに
自然と接することができたんだろう

今は俺が緊張してまなと
まともに話せないと言うのに…





雨の日に

傘を忘れた俺に

まなは無言で傘を
差し出してくれた

本の内容なんて
もう覚えてないけど

バスが来るまで
ふたりで読んだ

そのときの
静かな時間と

ありがとう

2人だけの空気は
今でも覚えてる

一緒に
かえらなっ?



中学の頃みたいに
もう手は繋がなくなった

何となくお互いが少しだけ
意識してるのかもしれない

昔よりも話すことは
減ったのになぜか
不思議と落ち着く



昔と変わらないはずの日常
だけど今はまなの：
顔が直視できなかった

昨日の初めてのエッチを
思い出すたびに
ちんぽが騒がしくなる

たぶん、まなも：
同じだったと思う

手を伸ばせば届く距離
でも、今日はなんだか遠かった

それでも――
まな、やっぱり君のことが――

放課後の静けさが染みついた更衣室
汗と柔軟剤の匂いが漂うなか

まなは静かに隅で隠れてた

あの夜、彼が…
眠ってしまった隙に—

指が勝手に
シャッターを押していた

これ、バシたら…
でも…



バレるかもしれない
でも、指は止まらなかった

その他愛ない会話さえ、
まなには遠く、霞んでいた

その頃、カーテンの奥――
まなは気配を殺して
静かに息を詰めていた



ねえ、なんか…
音しない？

え？
気のせいじゃ…

なくない？



バレそうで、でも…
もう止まらない

ドキ…

ドキ…

声は漏らさないのに
身体が震えてしまう



ふたりの会話も
気配もすべてが遠くなる

駿のことしか
頭になかった

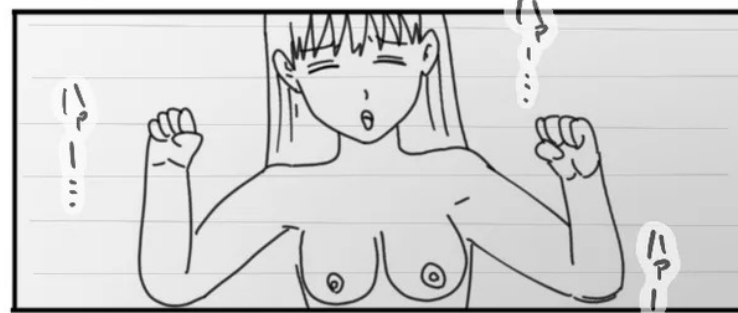
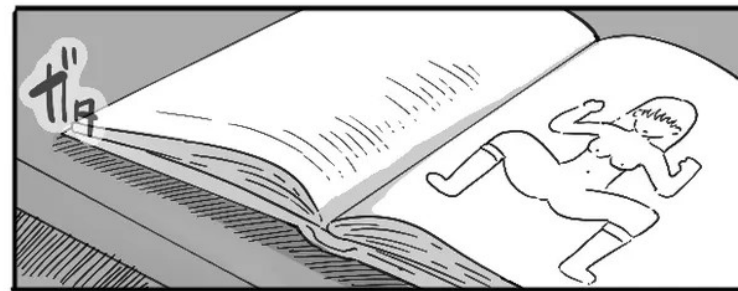
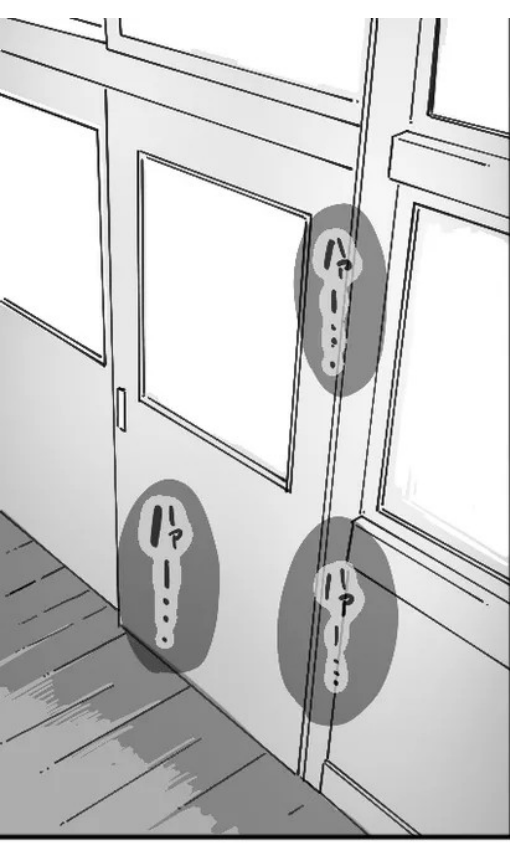
カーテンの奥で
ひとり達した少女は――

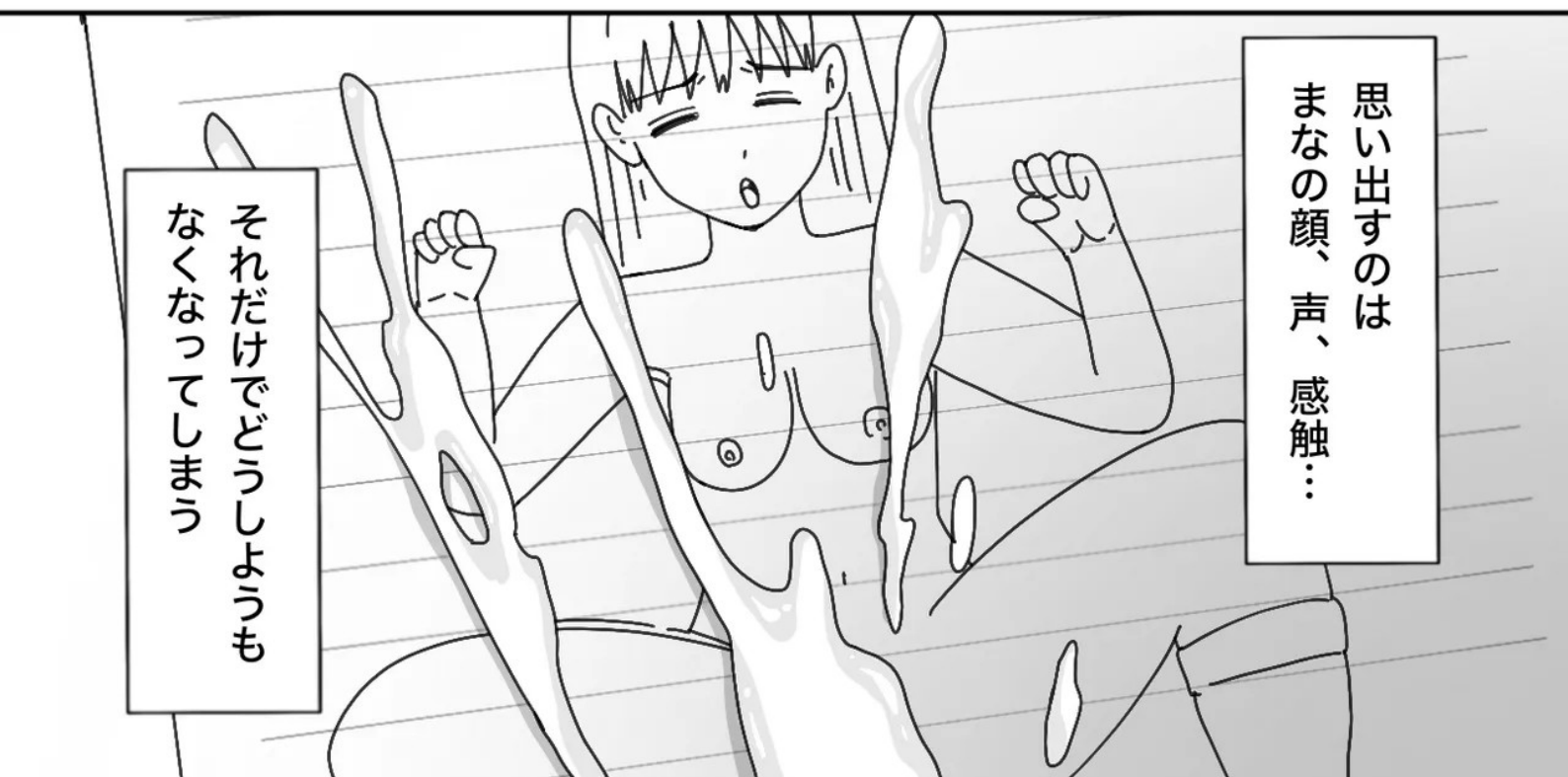
その罪悪感すらも
快感に溶かしていく

誰かいる？

なんか……
やっぱ出よっか

空いてるとこ使お







言葉はいらなかった



心が前へ進んだ



行こう……



ただ目が合った瞬間



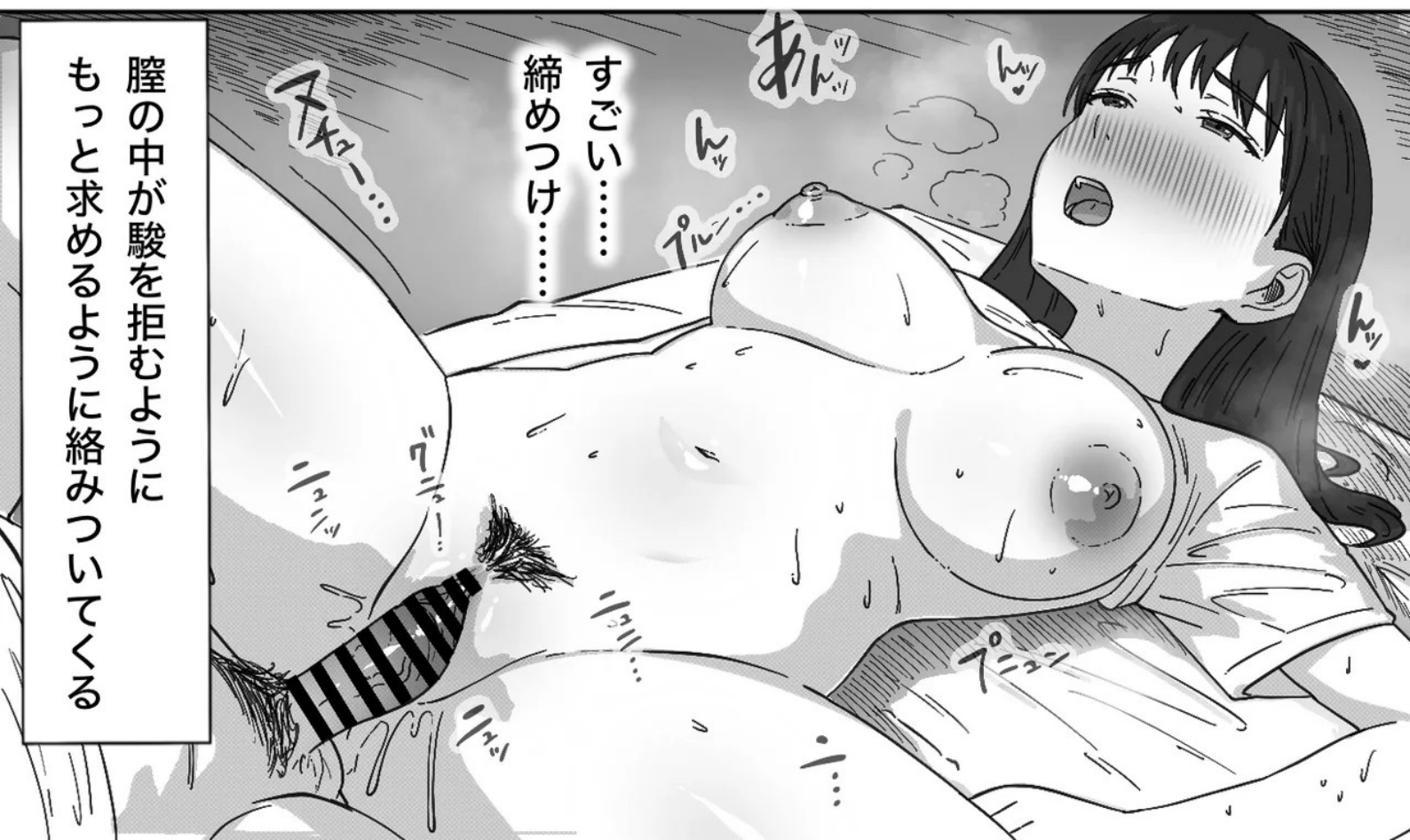
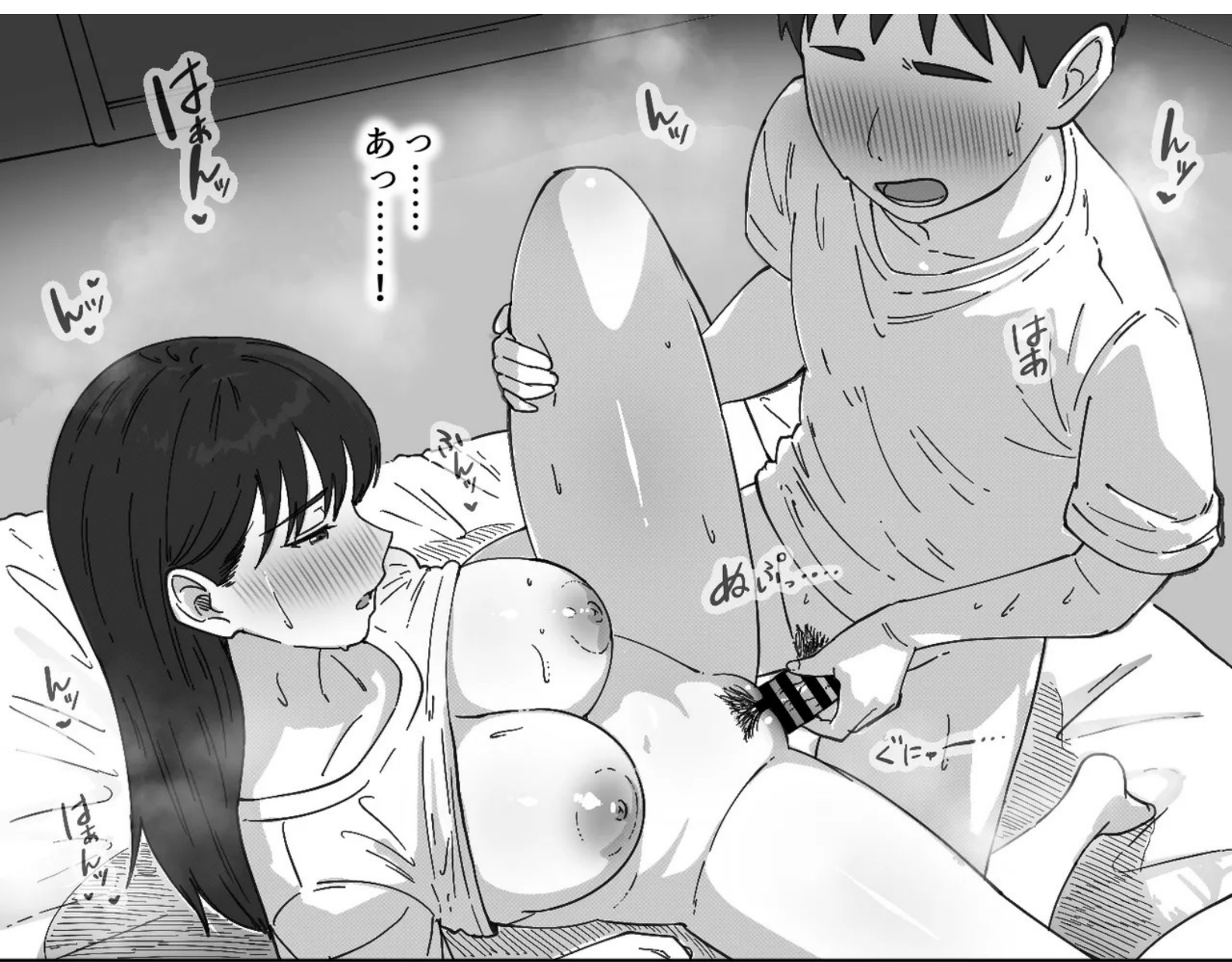




ありがとう
ていうかごめん……

恥ずかしさも照れも
心を近づける要素だった



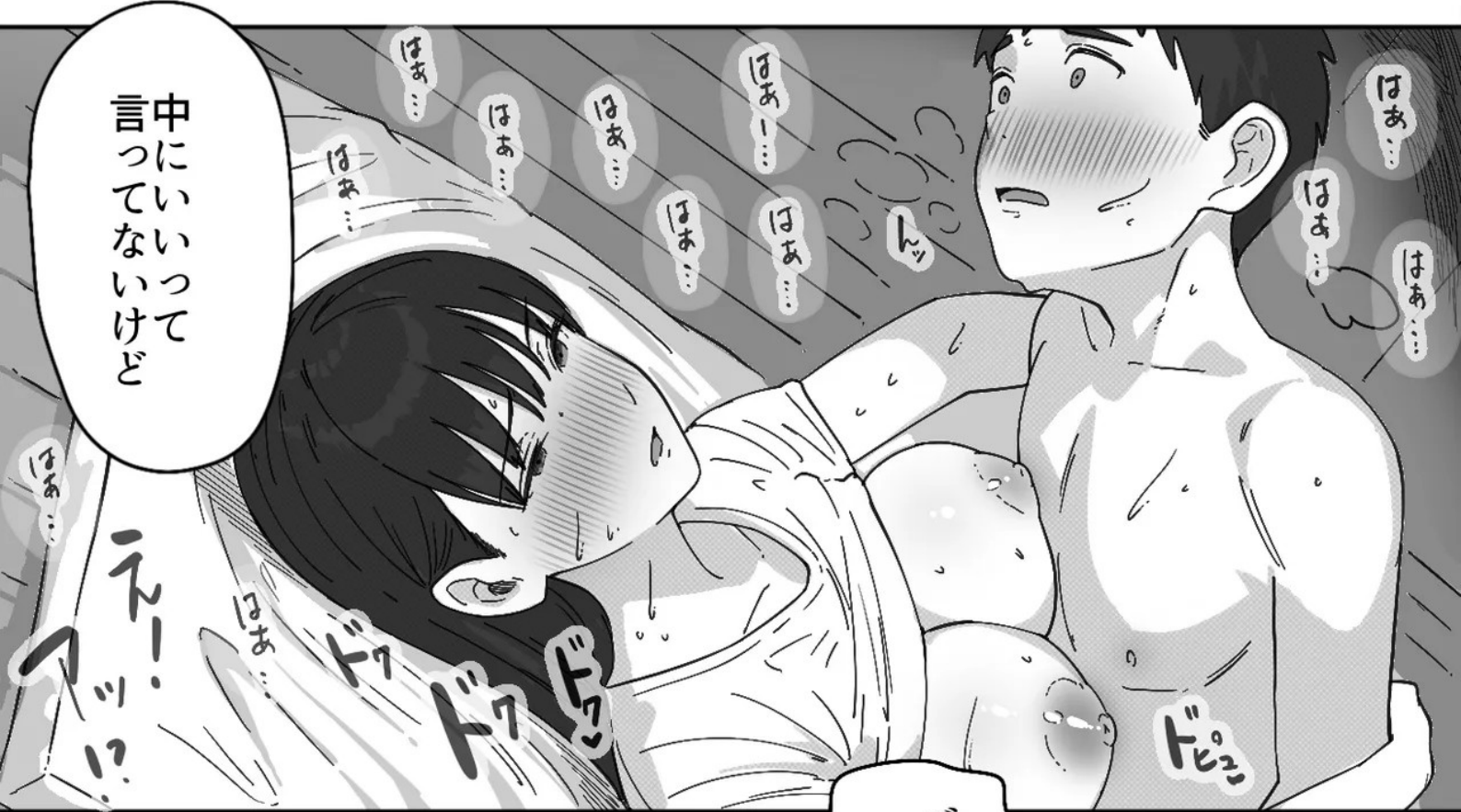


膣の中が駿を拒むように
もっと求めるように絡みついてくる





中、いっぱい
でてる……





来るに…
決まってるじゃん!



予習の先にあったもの
それは、ふたりで



FIN



あとがき

この作品を最後まで読んでいただきありがとうございました。
 本作は「無表情な幼馴染が“セックスの予習”を持ちかける」という
 突飛な導入から始まりつつも、実際には「関係の輪郭が曖昧なまま、
 心と身体の境界線が揺れていく青春的一幕」を描くことを意識しました。

抜き所をしっかりと描きつつも、ただのエロでは終わらない
 「温度のあるエロ漫画」にできていたら嬉しいです。

それでは、またどこかで。